

おおさか

まなびの

宝



大阪市西成区玉出地区(旧勝間村)発祥の力杓チャ「勝間南瓜」を使った授業が、地元

の市立玉出小学校(児童数299人)などで行われている。勝間南瓜は「大阪市なにわの伝統野菜」の一つで、児童らは、普及に努める地元の主婦、辰巳久子

さん(80)の指導の下、栽培、収穫、調理を通じて、伝統的な食文化を学んでいる。

今月9日、5年生40

人が勝間南瓜を使い、スープとケーキを作った。「めっちゃええにおいすでー」「うまくできたー」。教室には、大はしゃぎする児童らの声が響いた。

児童らは、辰巳さんから勝間南瓜の歴史を学び、校内で苗を植え、水やりを続け、今月までに収穫を終えた。

勝間南瓜は縦溝とこ

勝間南瓜



辰巳さんの指導で勝間南瓜の実をくりぬき、裏ごしする児童ら—大阪市西成区の玉出小で

大阪市立玉出小学校

ぶがあり、実は小さい。府立環境農林水産総合研究所によると、同市では昭和10年代まで栽培されていたが、都市化の影響などで一時途絶えた。その後、同市民が2000年に和歌山市の農家から種を入

手し、同研究所の前身

が増殖。辰巳さんは種を譲り受けて01年から作り始め、02年度から同小などで教え続けている。

授業を受けた男子児

伝統的な食文化学ぶ

時代から食べていた野菜を作り、味わった記憶が、古里を大切にすることにつながれば」と話した。

【山下貴史】